

1. GIGAスクール構想や一人一台端末活用の目的は何か？

GIGAスクール構想の趣旨として「誰一人取り残すことのない公正に個別最適化され、創造性を育む学びを実現」「未来を担う人材に求められる資質・能力の育成」「協働的な学び」等が示されています。また、新型コロナウイルスへの対応として、学びを止めない「緊急時の学びの保障」といわれることもあります。様々な趣旨が示されているように思います。が、構想自体は、まずは児童生徒一人一台端末を整えるための予算措置ですので、整備そのものが目的といえるでしょう。

そこで、整備された一人一台端末の活用の目的が大事になります。中教審答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」や、その解説である「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」などによれば、「学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めることが重要であり、そのためには新たに学校における基盤的なツールとなるICTも最大限活用しながら、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する『個別最適な学び』と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす『協働的な学び』の一体的な充実が図られることが求められる」とされています。つまり、学習指導要領の一層高度な実現のための一人一台端末活用と考えます。

2. なぜICTが必要なのか？

学習指導要領には「生涯にわたって能動的に学び続ける」と示されています。ますます高度化し、混迷を深める社会にあつては、学校を卒業しても、直面する様々な問題を解決するために学び続ける必要があります。教師や保護者がいなくなっても、自ら学び続ける子供の育成です。矛盾するようですが「教師不要な子供を、教師がどう育てるか」が問われています。

今や生涯にわたって学び続けるために、ICTは欠かせません。本を読んで学ぶとおっしゃる方もいますが、その本を探したり、手に入れたりするのは、今やICTを使うのが普通です。社会に出ても学び続けるためには、ICTは欠かせないのです。となると、学校教育におい



学校の新しい生活様式とGIGAスクール構想

東京学芸大学教育学部 准教授 高橋 純

てもICTを活用して学ぶことは自然といえるのではないのでしょうか。そのためのICT環境としてGIGAスクール構想があるのです。

このように考えれば、国語や数学などのテストで良い点をとるためにICTを活用するのも大事な観点ですが、ICTを使いながら学ぶことに慣れたり、ICTを使って問題解決したりしていくことも重要となります。

日々、先生方もICTも活用しながら問題解決をしていると思います。そうしたノウハウを、子供にも伝えていくことが活用の第一歩となるでしょう。

つまり、問題解決などの際に、連絡や調整をしたり、調べたり、まとめたり、伝えたりする際に、ICTを活用するのです。授業のみならず、係活動や行事、部活などでも活用できるでしょう。

コロナ禍により、我々の生活は変わり、来年がどうなっているのかすら見通せなくなりました。変化の激しい時代にあつては、PDCAは通用しにくく、ODALープが大事だなど言われています（御興味のある方は、是非、ICTを使って調べてみてください）。予測困難な時代にも、自分らしく生きるためには、臨機応変にうまくICTを活用して問題解決をしていく必要があるのです。

こうした資質・能力は、総則に示される学習の基盤となる言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等に関係するでしょう。これらを育み、発揮する際において、ICT活用は前提となります。

3. 国際的に日本はどの位置にあるか

生徒の学習到達度調査(PISA2018)において、読解力に関するスコアが有意に低下したのはご存じの通りです。この理由として、CBT(Computer Based Testing: コンピュータによる出題と回答)による試験であったこと、出題内容の一部がWebに書かれた文章など複数の情報を読み取る必要があったことなど複合的な要因が挙げられています。加えて、ゲームなどの「遊び」におけるICT活用の頻度は加盟国中で第一位ですが、「学習」のためのICT活用は最下位であることが明らかとなりました。

他にも、国際教員指導環境調査(TALIS2018)では、「生徒は課題や学級での活動にICTを用いる」は、最下位の台湾の次に位置していま

す。
子供だけではありません。国際成人力調査（PIAAC2013）によれば、「読解力」「数的思考力」は1位ですが、「ITを活用した問題解決能力」は10位でした。

つまり、我が国は子供も大人も紙と鉛筆で回答できる調査や試験には強いのですが、問題解決的なプロセスが問われたり、その際にICTを用いることが求められたりすると弱いといえます。社会においては、人の能力は、素手ではなく、道具の活用も含めて評価されます。その際、ICTが上手に活用できないというのは致命的です。

また、ICTスキルは、意図的・計画的に指導しなければ、効果的に身につかないともいえるでしょう。子供は教えなくても分かるというのは思い込みだと思います。例えば、ワープロでレイアウトを効果的に調整する、表計算で効果的に関数を用いるなどのスキルは、しっかりと指導する必要があります。こうしたスキルがストレスなく発揮できてこそ、問題解決にICTが使えるのです。

4. クラウドの積極的な活用が前提

新学習指導要領には、ICT活用が前提となる記述が数多く見られます。それらに対応して「第3期教育振興基本計画」（平成30年6月）では、3クラスに1クラス分程度のPC等の整備計画が示されました。その後、技術的な進展も見られ「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策」（令和元年6月）では、安価に整備するために「クラウドコンピュータ」（ユーティリティ）が極めて有力な選択肢」と示されました。つまり、これまでの1台分程度の予算で3台買える目処があったのです。それが1人1台PCを整備するGIGAスクール構想につながりました。

このような経緯から、1台あたり4万5千円という低スペックのPCを効果的に活用するためには、新しい技術であるクラウドを活用するしかありません。

例えば、クラウド型のワープロソフトは、簡単に共同編集ができるなど、これまでと異なる印象を持つはずです。操作法はほとんど変わらないうちに、情報の流れ、作業手順が劇的に変化し、仕事が効率化します。なぜ、最初からこうでなかったのかと思うほどです。私自身も研究スピードが上がったと感じています。ただ、私も使いこなしている人と一緒

「GIGA=Global and Innovation Gateway for All」

〈連載テーマ①〉 ICT教育の推進

に仕事をするまで、完全に理解することは難しかったと思っています。操作は簡単です。ICT技術に堪能である必要はありません。ただ活用慣れている必要があります。ID一つで様々な活用ができるクラウドは、様々な事態に柔軟に対応しやすく、先が見通せない時代に最適な仕組みといえます。

5. 楽で便利な活用からはじめよう

まとめると、日本は、大人も子供もICTに慣れておらず、その上、新しいクラウドを使いこなしていく必要があります。そもそも一人一台端末の学習環境も初めてです。

まずすべきことは、教師自身が、会議などの業務で一人一台端末を使い、楽で便利な活用からはじめてみる事です。例えば、資料の配付とか蓄積がいいでしょう。Google ClassroomやMicrosoft Teamsなどを使ってみましょう。授業研の資料を印刷する手間が省けたとか、過去の資料も参照しやすいとか、臨機応変に資料を追加できるとか、カラーで見やすいとか、共同で作成や修正ができるとか、これだけでも楽で便利なおことがたくさんあります。

授業でも同じように使えます。印刷したのに使わなかったとか、印刷しておけば良かったとか、そうしたことが減り、臨機応変に資料を配付できます。子供にとっても、社会人と同じ活用方法である方が、卒業後に役立ちます。

先生方が楽で便利だと思ってくださる第一歩が重要です。そうすれば、先生方は創意工夫が得意ですので、自ずと発展的な活用につながるかと考えています。

- うまく活用できている地域では、
- 1) 試しに、使ってみる。
 - 2) 良かったら、続けてみる。
 - 3) 駄目だと思ったら、やめてみる
- くらいの気持ちで活用しているように思います。まずは試しに使ってみることから始めるのがよいでしょう。